

## 令和3年度第1回立川市総合教育会議 議事録

開催日時 令和3年6月11日（金曜日） 15時30分～16時32分

開催場所 立川市役所 208・209 会議室

出席者 [構成員] 清水庄平（市長）、小町邦彦（教育長）、伊藤憲春（教育長職務代理者）、  
嶋田敦子（教育委員）、小林章子（教育委員）、石本一弘（教育委員）  
[事務局] 栗原寛（総合政策部長）、大野茂（教育部長）、浅見知明（総合政策部  
企画政策課長）、小林直弘（教育部教育総務課長）、前田元（教育部指  
導課長）、寺田良太（統括指導主事）、比留間幸広（市史編さん室長）  
小川始（市史編さん係長）

議事日程 1. 議題

- (1) 市史編さん事業について
- (2) 立川市民科教科化に向けた検討について
- (3) 令和3年度学力向上推進事業について

2. その他

議事録

（清水市長）

定刻となりました。ただいまから令和3年度第1回立川市総合教育会議を開催いたします。

本日の会議は、議題は3件ございます。議事進行につきましては、御協力をお願いいたします。

1. 議題

(1) 市史編さん事業について

（清水市長）

まず、議題の第1、市史編さん事業について、でございます。

市史編さん室長から説明をいたします。

（市史編さん室長）

皆さん、こんにちは。市史編さん室長の比留間と申します。着座にて説明させていただきます。

それでは、資料のほうを御覧いただきたいと思います。市史編さん事業についてという資料と、あと、皆様に『たちかわ物語』というパンフレットのほうをお配りさせていただいております。

それでは、説明させていただきます。

1番の経緯といたしまして、前回の『立川市史』につきましては、昭和43年度に刊行させていただいておりますけど、それからおよそ半世紀が経過いたしまして、その間、市民の皆様の生活や街並みは大きく変貌してございます。

また、学術調査の進展や新たな資料の発見などの成果も蓄積されてきております。

将来を見据えまして、これからのまちづくりに役立てるためにも、これまでの市の歩

みを記録として残し、また、相続等により、急速に失われつつある歴史的な資料を保存・継承することが重要であるということから、新たに市史編さん事業を開始してまいります。平成27年度から始めておりますので、ここで事業はちょうど折り返し地点になってまいります。

今後の課題といたしまして、収集した資料の保存・活用についての検討も行ってまいります。

2番、事業期間といたしましては、平成27年度から令和6年度までの10年間の予定でございます。

3番目の組織・体制につきましては、以下のような体制を進めております。

まず、市長が外部委員会でございます市史編さん委員会に諮問をいたしまして、編さん委員会のほうから答申をいただくというような形を取ってまいります。

編さん委員会につきましては、そちらに記載してございますように、委員長に筑波大学教授の白井先生をお招きしまして、また、文化財の保護審議会の会長ですとか、市民公募ですとか、そういった方で編さん委員会のほうは構成してまいります。

そちらで市史編さんの基本方針を策定いたしまして、その下に事務局といたしまして産業文化スポーツ部市史編さん室、これにつきましては、今まで地域文化課の下に係長1名、また、専門委員の嘱託という形でやっておりましたが、令和3年度より地域文化課長、私が市史編さん室長兼務という形でやらせていただいております。

また、市史編集委員会につきましては、市長から委嘱されまして資料収集や調査、市史の編集、執筆などを行ってまいります。

分野ごとに分けておまして、そちらに記載してございますように、先史、これは旧石器時代から古墳時代。古代・中世、奈良・平安時代から戦国。近世、江戸時代ですね。それから、近代、明治・昭和の戦前まで、戦中までとなります。そして、現代につきましては、戦後から、今日まで。もう一つ、民俗・地誌という分野で、これにつきましては市民生活の変遷ですとか伝承等につきましてとなっております。それぞれの部会ごとに部会長、これは大学の教授ですとか、たましんの歴史資料室長さんをお願いして、この下にそれぞれまた調査員という形で、調査員の皆さんをお願いして、それぞれの調査等を行ってまいります。

裏面をめぐっていただきまして、刊行物の計画がこちらに記載してございます。

本編2冊、これはいわゆる『通史』、上下巻2冊。

続きます、資料編12冊。これは後で皆さんに回覧しますので、御覧いただければと思います。これにつきましては、『先史』、『古代・中世』、それぞれについて発行していく予定です。

また、別編4冊、これはテーマ編、『近代』ですとか、『現代』、『民俗・地誌』、『普及版』となっております。

そして、調査報告書8冊。

こういった刊行物を、順次、刊行しております。

つづきます、普及事業につきましては、これは市民の皆様こういった事業をやっているということで広報をしていくために、『たちかわ物語』これは年2回、皆様にお配

りしておりますが、1号から11号まで編さんしてございます。

また、年1回、関連の講演会といたしまして、それぞれの部会のテーマで講演会をやっております。

令和2年度につきましては、このコロナ禍でございましたので、立川市の動画チャンネルでの配信に変更してございますので、皆さん、よろしければ御覧いただければと思います。

また、関連展示は、現在、タクロスの多目的スペースでもやっておりますが、「市史編さん事業と公文書」という形でパネル展、写真展をやっております。

最後になりましたが、事業の連携・協力についてということで、本日、教育委員会の皆様をはじめ、また、御協力をお願いしてまいりたいと思っておりますが、先ほどの別編『普及版』につきましては、これは中学生ですとか、学校で郷土学習の教材としても活用できるようなものを編集したいと思っております。

これにつきましては、また教育委員会の皆様等の御意見をいただきながら発行していきたいと思っております。

また、この市史編さんにつきましては、いろいろな資料を収集・保存してまいりますので、それで刊行物を作ったら終わりということではなく、またその資料を、今後、皆様に見ていただくことや、また、学術の研究等にも資するような形で公開していくようなことを考えてございます。

報告は以上です。

また、刊行計画、A4の横になっておりますが、こちらを御覧いただきたいと思えます。

この黒い星印が令和2年度までで発行したものです。

また、今後、令和3年度以降、順次、こちらに記載してあります刊行物のほうは、順次刊行していく予定です。

また、立川市史刊行の御案内ということでつけておりますが、こちらのほうは市役所でも販売しております。

また、オリオン書房ノルテ店ですとか、ジュンク堂書店さんのほうでも販売をお願いしておりますので、皆様、御覧になっていただければと思います。

報告は以上です。

今、これから資料のほうは回覧させていただきますので、御覧ください。

以上です。

(清水市長)

それで、ただいまの説明につきまして、御質問、御意見等がございましたら御発言をお願いします。

よろしいですか。嶋田委員。

(嶋田委員)

御説明ありがとうございます。本当に素晴らしい委員の方々で編さんしてくださっているということで、今、立川市民科のこともありますので、使わせていただけるとありがたいなと思えますし、個人的にも興味があるので、いつの日にか購入できたらいいな

と思います。

それで、ちょっとかなり分厚いもののようなので、デジタル化とかしていただけるとありがたいなと思ったんですけども、そのような予定というのはありますでしょうか。  
(市史編さん室長)

デジタル化につきましてですけど、今、書籍のほうは発行して販売させていただいておりますので、すぐということだと、また買っていただいた方とのちょっと差がついてしまいますので、時期を見まして資料についてはデジタル化していきたいと思います。

また、これから写真編ですとか、今、ありますけど、『地図・絵図版』というのがA4のサイズなんですけど、そちらにはDVDが附属してございますので、またそういったものも御覧いただければと思っております。

このDVDは、それぞれの地図をもっと拡大して見えるようになっております。

(清水市長)

そのほか、御質問と御意見はございますか。

小林委員。

(小林委員)

手元に『たちかわ物語』をいただきましたけれども、普及事業のところで広報紙として出ています。

本当に申し訳ないんですけど、私、これ初めて目にしまして、中をめぐって見ましたら、大変貴重な立派なものですので、これ、市施設等で無料配布と書いてありますが、具体的にはどういう場所でどのくらい配布されているのか、参考までに教えていただけますでしょうか。

(清水市長)

市史編さん室長。

(市史編さん室長)

まず、ホームページのほうには、こちらのPDF版が御覧いただけるようになってございます。

あと、市役所ですとか、地域学習館などのほか、図書館には配架させていただいておりますので。あとは歴史民俗資料館ですね。

(小林委員)

私も割と市の施設には出かけるほうなんですけれども、ちょっと目に入りませんでした。

というか、あったかどうか、もしかして、冊数はどのくらいあったんでしょうか。

(清水市長)

市史編さん係長。

(市史編さん係長)

市史編さん係長です。『たちかわ物語』は、全部で3,000部刷っております。

それで、市の施設としては学習館、それから、図書館、歴史民俗資料館、あと、女性総合センター・アイムの窓口等で、それぞれ大体50から100ぐらいずつは毎回配布させていただいて、なくなったら追加の連絡を受け次第、配布したりしております。

そのほか、タクロスにも置かせていただいたりとか、おもだった窓口には大体置かせてはいただいております。

(清水市長)

小林委員。

(小林委員)

分かりました。では、今後、十分注意して手に取らせていただきますし、デジタル化されているということですので、PDFですか、なのでホームページで見せていただきます。

やっぱりこういう過去を見返して未来につなげるというような内容は、とても大事なことだと思いますので、知り合いにも宣伝したいと思います。

ありがとうございます。

(清水市長)

ほかにございますか。よろしいですか。

それでは、市史編さん事業については以上で終了といたします。

## (2) 立川市民科教科化に向けた検討について

(清水市長)

次に、(2)であります。立川市民科教科化に向けた検討について、に移ります。

事務局の指導課長から説明を願います。

(指導課長)

それでは、立川市民科教科化に向けた検討について御報告いたします。

教育委員会では、文部科学省の教育課程特例校制度を活用した立川市民科の教科化に向けて検討を進めております。

教育課程特例校制度とは、学校、または地域の実態に照らし、より効果的な教育を実施するために、特別の教育課程を編成することを文部科学大臣が認める制度のことです。

この制度を活用し、令和2年4月時点で全国で1,873校が特別の教育課程を編成してございます。

この制度を活用し、本市では平成27年度から取組を開始した地域に根差した探求的な学習である立川市民科の教科化に向けて、これまで学識経験者及び学校長などで構成する検討委員会で2回、定例教育委員会では3回の検討を重ね、お配りした素案を作成してまいりました。

お配りした素案では、教科化の背景として、教育基本法、学習指導要領、地域とともにある学校づくりとの関係、地域的特性との関係といったところからお示ししているほか、裏面には教科化の目的として、市民性を育むことにより多様性を尊重し、世界の人々とも力を合わせ、よりよい社会の実現に向け、主体的に行動する市民を育成することとし、目指す児童・生徒像については、地域を知り、地域を大切に思いを育み未来を拓いていく児童・生徒。地域と関わり、主体的に行動し、よりよい地域づくりに参画しようとする児童・生徒としました。

今後は、この素案を基に、検討委員会及び定例教育委員会においてさらに検討を進め、本年 8 月の国への資料等の提出及び国との調整を経て、本年 12 月には国の正式な決定を得たいと考えてございます。

また、教科化に当たっての時数や保護者、地域との共通理解の調整などについても丁寧に進めてまいりたいと考えてございます。

お配りした資料に関する報告は以上でございますが、本日は、画像等でこれまでの立川市民科の取組について御説明いたします。

モニターのほうを御覧ください。

これまでの立川市民科の取組をお伝えするために、モデル校であった第六小学校の取組を紹介します。

六小では、御覧のように教育目標と各教科の学習と立川市民科を明確に整理して取り組みました。

学校全体の取組になるよう、手だても整理して取り組みました。

さらには、持続可能な開発目標、SDGs も活用して研究が進められました。

まず、第 1 学年生活科の取組を紹介します。

こちらは学習目標です。

秋口に子どもたちは校庭へと出かけます。アキアカネや昆虫、柿の実などの植物を見つけましたが、校庭にはドングリの木の実がないことに気づきました。

教室にある本の中から、木の葉や木の実を使ったおもちゃづくりの本を見つけると、ドングリや松ぼっくりなどを使っていろいろなおもちゃをつくれるということを知りました。

子どもたちは、みんなでつくろうということで活動が広がっていきました。

調べたおもちゃからつくりたいものを選び、ドングリや松ぼっくりを使っておもちゃづくりをしました。

できたおもちゃを使った遊びの計画を立てています。

みんなで遊ぶために、お店屋さんごっこをすることにしました。

すると、そのときに、ドングリを探しに行った公園で出会った保育園の子どもたちと遊んだ経験を思い出し、その子どもたちも一緒に招待してはどうかという話になりました。

お店屋さんごっこ、あるいは交流会に向けた取組では、国語科の学習と関連させて、幼稚園の子どもたちに招待状を書いたり、お楽しみ会をした経験を生かして司会の担当やプログラムを決めたりといったことを行いました。

こうして、いろいろな教科の力を合わせて子どもたちは取り組んでいきました。

交流会を終えると、年下の子に説明するのは難しかったけど、また交流会をしてみたいとか、年長児の子どもたちが 4 月の入学をととても楽しみに思うようになったという保育士の方のお話を伺って、子どもたちは人の役に立てたと実感することができました。本物の学習につながったと感じたそうです。

次に、3 年生の総合的な学習の時間、「湯ったりあったか羽衣プロジェクト」について紹介します。

こちらは学習目標になります。

テーマは、銭湯となりました。

なぜ銭湯かという、羽衣町には、松見湯、美保湯という2つの銭湯があったためです。

みんなでお風呂に入りたい。銭湯のよさを羽衣町の人に伝えたい。そういったところから学習がスタートしました。

まず、何とんでも体験ということで、3年生全員で銭湯に入りに行きました。

大きなお風呂でみんな大興奮でした。

一番人気だったのは、ジャグジー風呂だそうです。

みんな銭湯が大好きになりました。

入浴が終わって銭湯のおかみさんに挨拶をすると、銭湯のよさをみんなに伝えてくださいねとお願いをされます。

こうしてプロジェクトとして本格的に子どもたちが動き出します。

教室に戻ったら、銭湯で感じたよさを写真や言葉で模造紙にまとめました。

さらに、宣伝するために自分たちでコマーシャルをつくったり、羽衣銭湯物語というオリジナルの劇を発表したりしました。

また、取材をする中で日本に3人しかいない銭湯絵師の丸山清人さんとお会いします。

丸山さんは、銭湯の壁に雄大な富士山の絵を描く職人さんです。その丸山さんが六小でライブペインティングをしてくださることになりました。

銭湯のよさを多くの人に伝えるため、ポスターやチラシで宣伝することになりました。子どもたちがデザインしたポスターになります。

このポスターは、銭湯はもちろん、学習センターやコーヒー屋さん、唐揚げ屋さん、お茶屋さん、西国立駅、ほかにもたくさんのお店や地域の皆さんがポスターを貼ってくださいました。

仲間や地域、社会と関わる活動としてコミュニケーション力が高まったように感じたそうです。

そして、当日です。小町教育長をはじめ、地域の方がたくさん六小を訪れたそうです。

丸山さんは、目の前でとってもきれいな、すてきな富士山の絵を描いてくださったそうです。

2月には、立川市にある梅の湯の若旦那さんに、銭湯の数が減っていることを教えていただきました。東京都では、銭湯が10年間で400件も減ってしまったそうです。

銭湯が好きになった子どもたちは、大きなショックを受けました。何とか魅力を多くの人に伝えなくちゃという本気の話合いになりました。

立川市民科で大切なことは、探求的な学びがこのように繰り返し起こるように、しっかりと教員が支援していくことと感じたそうです。

そして、子どもたちのアイデアで「湯ったりあったか羽衣手ぬぐい」を製作しました。よく小町教育長がお見せする、あの手拭いでございます。

こうした学習の成果として、企画したイベント等の活動を経験することで、協力して解決する力、企画を運営する力、情報を収集し、整理・分析する力がつきました。

また、身近な地域の問題への関心や意欲が高まり、地域の一員としての意識や生活体験を生き生きと話す力、書く力など、表現力が高まりました。

話合いの時間を多く必要とすることで、コミュニケーション能力が向上し、多面的に考える力が身についてきたそうです。

また、学校や保護者、地域の方にとってもいいことがあったそうです。

児童の企画した学習発表に参加したり、購入したりすることでつながりが深まった。地域や保護者の方々も含めて地域の良さや魅力を再確認することができたというような声が寄せられたそうです。

課題といたしましては、この学びを継続するために、効果的な地域人材の発掘や活用方法、事前打合せの工夫が必要になってまいります。

また、発達段階を踏まえた授業づくりというのは、常に必要となってまいります。

こうした研究がこれまで行われてきたところでございます。

これまでの立川市民科の取組については以上でございます。

御報告は以上となります。

(清水市長)

それでは、ただいまの指導課長の説明につきまして、御意見や御質問等がありましたらお願いします。

伊藤委員。

(伊藤委員)

御説明ありがとうございました。本当に地域の場所に行って、前に大山小学校のほうで道徳授業の地区公開講座とか、それから、父兄の参観日に行ったときに、そこにいらっしやっただ方が、最近、立川に引っ越してきたんだけど、子どもから立川のよさを教わったんだというようなことを言ってくださいました。

結局、子どもたちが地域の中でどんどん活躍していく中で、そのときだけ、例えば教員も転勤等ありますし、それから、人も増えてきます。それが一つの教科としてつながって、いろいろなことが教えていかれるようになるということが、どんなに大切なことかというのを、そのときに改めて感じさせていただきました。

それから、今、市民科につきまして、教育委員会でも、いろいろな意見があります。世界につながるというような方も話し合われていることもあるんですけども、やはり世界につながるためには、一步一步地域のことからということが、とても大切なことなんだなと。

よくあるんですけど、学校で習ったことが世の中のために何が役に立つのかというようなことをよく言われるんですが、それが一つ一つが世界につながっているんだ、地域から世界に行くんだというようなことが、何となく子どもたちには響いているのではないかなというふう感じて、この取組に関してとてもありがたいなと、私自身は思っております。

以上でございます。

(清水市長)

ほかに、御発言の方。嶋田委員。



(嶋田委員)

御説明ありがとうございます。私も六小の取組を見させていただきましたけれども、本当にすばらしくて、地域の方々と子どもたちが本当につながって、子どもたち、地域をよくするためにとっても力を発揮してくれていたなと思って、本当にすばらしい取組だったんですね。

ただ、一方で、そのようにすぐにイメージできる学校と、まだまだどうやったらいいんだろうというような学校も、恐らく小・中学校全校となるとあると思いますので、どういう取組があるとか、そういう紹介ですとか、計画とかいうところはしっかりと学校とか、先生方の負担になり過ぎない形でやっていただけたらなと思います。

以前、富士見町に富士見土曜クラブというのがあって、地域の方々が本当に純粹に子どもたちのためにいろいろな体験をさせてくださって、うちの子どもたちは積極的に参加していたので、地域の方々と関わる中で生きる力だったり、自己肯定感だったりを育てていただいたなって、本当に感謝しているんですけども、そのような体験を1人でも多くの子どもたちができるといいなと思っています。

ですから、地域によってもどんな人材がいるかというのは、また違ってくると思うので、本当に立川一丸となってじゃないですけども、砂川のほうにこんな方がいらっしゃるからちょっと富士見町にお話しに来ていただけないかなとか、ちょっと南のほうだから畑がないんだけど、砂川のほうの畑やらせてくれないかなとか、そういうふうに立川一体で取り組んでいけたらいいのではないかなと思います。

以上です。

(指導課長)

どうもありがとうございます。今、御紹介させていただいたのは、立川市民科の取組がいくつかの研究校の中で、このような形でストックされてきているというところをお伝えしたく、御報告させていただいたところでございます。

今、御紹介した、特に「あったか羽衣プロジェクト」というのは、壮大なプロジェクトですので、あれが一朝一夕にすぐできるというふうには、私どもも考えておりませんが、こうしたアイデアというのは、確実にたまってきておるところでございます。

今、各学校のこうした取組のアイデアを、10月末を目途に各校2事例ずつ提出していただくことをお願いしているところでございます。

そういった事例を全校に紹介しながら、授業づくりをする際の各学校のアイデアのネタ帳じゃないですけども、そういった形でうまく活用していただきながら、ちょっとヒントの視点があるだけで、各学校の先生方は授業のアイデアを壮大に構築していただけますので、そういった形で無理なく全校が取り組めるような支援というのはしていきたいというふうに思っておりますし、子どもたちが取り組んだ結果、ああやってよかったなど、この地域に住んでいる大人の人たち好きだなって感じていただけるような取組になればという願いを込めて教科化を進めさせていただいておりますので、そういった方向に無理のない形で進めるように、今後も検討を重ねてまいりたいというふうに思います。

以上です。

(清水市長)

よろしいですか。ほかに御発言は。石本委員。

(石本委員)

ありがとうございました。お風呂のお話は、教育長からも直接伺ったりして、すごいなと本当に感心しております。

もしできたらでいいですけど、今度、中学校の例で何か顕著な取組とか、こういう新しいアプローチをしているんだというようなお話がちょっとでも伺えればありがたいです。

以上です。

(清水市長)

指導課長。

(指導課長)

すみませんでした。ちょうど私が着任したときの総合教育会議の場で、五中の砂川楽というのを取り上げて、立川市民科に触れていたものですから、今回は小学校かなというところで、すみません、六小を取り上げさせていただいたところがございます。

五中では、砂川楽の「がく」は楽しむというところで、地域の文化を大事にした立川市民科の取組を進めさせていただいておりますし、そういった取組を進めている中学校も当然ございますので、実践事例集がまとまった際には、御紹介できるようにしたいなというふうに思っております。

以上です。

(清水市長)

小林委員ございますか。どうぞ。

(小林委員)

一言言わせてください。私もこの市民科にはとても期待しております。

今、スライドの中で、子どもたちが笑顔だったのがとっても印象的でした。勉強は、自分のことを思い出してみると、何か楽しいと感じたことはあんまりなくて、やらされている感がすごい強かったですけれども、楽しいと感じればどんどん学ぼうという意欲も出てくると思います。

ですので、この楽しさ、笑顔というのは一番のメリットかなというふうに思いました。

そのほかにも、いろいろいいところが挙げられるんですけれども、ちょっとお話しさせていただいてもよろしいでしょうか。

私は、社会に出てから一番必要だなと思ったのは、考える力とそれを表現する力というふうに感じました。そんなの、でも、学校で教わったことないというふうに、当時の学校でしたので、詰め込みが主流でしたので、学校って勉強したのかな、何を勉強したんだろうと、公式とか、年号とか、そういうのを覚えて何の役に立ったんだろうというふうについつい思ってしまって、とにかく考えること、表現することが大事だと思いました。

この市民科の学習、いろいろ情報を聞いていますと、自分たちで進んで次はこうしようとか、なぜこうなっているんだとか、今の銭湯の例でもそうですけれども、どんどん

広がっていきましたので、そういう考える力というのを身につけるといことは、とても将来も役に立つんじゃないかなというふうに思いました。

そして、しかも1人でやるのではなくて、みんなで考えながら一緒にやっていくという、そこもとっても魅力だと思います。

私、考える力が大事だと思って、自分の子どもにはよく考えなさい、自分で考えなさいと言ってきたんですけども、それで大失敗なところがありまして、自分でしか考えないという結果だったんですね。

なので、人の話を聞いたり相談したりすると、新しい情報も入ってくるし、違う考え方も分かる。そういう意味では、みんなで一緒になって学ぶということは、とても効果的でいいことなんじゃないかなというふうに感じました。

それから、最後に、先ほど伊藤委員がおっしゃいました他の地区からいらした方が、立川はいいところねと感じたという。

私も子どもが生まれてからこちらに来たんですけど、特に何のつながりもなく、本当に偶然と言えれば偶然なんですけど、そんな中で生活しているときに、うちの前は、今は違いますが、ずっと畑があって、遠くには富士山が見えてとてもいい景色だったんです。

すみません、何か個人的なお話をしますけれども、どこかから持ってきた例話よりはちょっと伝わりやすいかなと思ってお話しさせていただきます。

いつもベランダからぼーっとその景色を眺めているのがとても気持ちよくて至福の時間だったんですね。

あるときに、息子がそばに来て、立川はいいところだよねと、多分、小学校の中学年だったと思うんですけども、その場面をすごくよく覚えていまして、それは多分、学校でちょうど総合的な学習の時間が始まって、いろいろな地域に出て行って、戦争の話を聞いたり、ウド室を見せてもらったり、玉川上水を調べたり、みそ造りをしたりとか、いろいろな体験をさせていただいたので、そういうことがとっても影響しているんだなというふうに感じました。

私にとっても、自分が移り住んできたところが、子どもにとっていい場所だって思えたということは、私にとってもいい思いをさせていただいたということになりますので、そういうふるさとに誇りを持つ、愛着を持つというのは、こんなところ早く出ていきたい、嫌だと思っているよりも、ずっと幸せなことだと思います。本当にささやかですけども、それがあって、今、こうやって暮らしていけているんだなというふうにしみじみ思いますので、そういう気持ちを子どもたちにも、地域の人にも、親にも味わっていただきたいなというふうに思っております。

すみません、長くなりましたけれども、とても思い入れがありますので、ちょっとお話しさせていただきました。

(清水市長)

応援いただき、大変心強いかぎりです。さらに皆さん、しっかりとした、充実をした子どもたちの教育をよろしくお願ひしたいと思ひます。

伊藤委員、よろしいですか。

では、次に進ませていただきます。

(3) 令和3年度学力向上推進事業について

(清水市長)

続きまして、令和3年度学力向上推進事業について、に移ります。

事務局の指導課長から説明をいたします。

(指導課長)

それでは、令和3年度学力向上推進事業について御報告いたします。

最初に、昨年度の児童・生徒の学力の状況です。

昨年度は、コロナ禍のため、学力調査を行うことができませんでした。

このことから、本市では東京ベーシック・ドリルの診断シートを活用し、9月、12月、3月と児童・生徒の学力の変容を分析してまいりました。

本日は、最終、3月の結果を12月の結果と比較した資料をお配りしてございます。

資料は、1番上、12月を御覧いただければと思うんですけども、その中の表が2つございます。

上側の表が問題ごとの正答率を示してございます。

例えば、16のところを御覧いただきますと、問題番号16を正解できた子は33.4%というところがございます。

2つ目の表については、全体の正答数の割合を示してございます。

同じところで申し上げますと、15は15問正解であった子の人数というのは94人で、割合は全体の6.9%。隣の16、全問正解の子は93人で、割合は6.8%となっております。

この正答数の割合を棒グラフでお示ししております。

12月の棒グラフと3月の棒グラフを比較していただきますと、全問正解の子どもたちが増えているだけではなくて、左側にいるなかなか正答数が残念ながら伸びなかった子どもたちの割合が減っている。全体的に山が右側にずれていることがお分かりいただけるかというふうに思います。

2ページ目を御覧ください。

中学校についても同じように整理してございます。

12月の時点では、9問目の正答数が9問という生徒が一番多かったわけですが、12月になりますと11問正答、13問正答というところが大きく伸びてございます。

これも山が右側に大きくずれているというところがお分かりいただけるかというふうに思います。

このことから、児童・生徒の正答数が確実に増えており、学力に一定程度伸長が見られて、定着が図られているということが言えるかというふうに思います。

一方で、まだまだ正答数が少ない子どもたちが0とはなっておらず、1人でも多く正解できるように指導・支援をしていくことが課題となっております。

この結果を踏まえ、正答数が少なかった児童・生徒への支援として、東京ベーシック・ドリルの一層の活用を進めるとともに、立川スタンダード20を活用した分かりやすい教材提示などの授業改善を進めてまいります。

また、定着が進んでいる子どもたちに対しては、1人1台タブレット端末を有効に活

用し、個に応じた学習の充実を図るとともに、教育力向上モデル校の活用により先進的な研究を進め、発展的で探求的な学習が推進できるようにしてまいります。

また、児童・生徒の学習意欲を育む取組としては、先ほど御報告いたしました立川市民科の充実を図り、地域と連携しながらより魅力的な学習づくりができるよう支援してまいります。

報告は以上となります。

(清水市長)

それでは、ただいまの報告につきまして御質問がございましたら御発言を願います。

嶋田委員。

(嶋田委員)

御説明ありがとうございます。今、前田課長がおっしゃったように、やはり改善はしているものの、全くとかほとんどできていないお子さんも一定数いるというところはちょっと心配なところで、支援をされてはいるんだと思うんですけども、やはりドリルの手前のところにつまずいてしまっている子どもに、いくらドリルをやっても難しいのかなというところはあると思うんですが、そのドリルの手前でつまずいてしまっているようなお子さんに、例えば認知機能トレーニングだとか、そういうものを試してみるとか、あるいはほかの支援につなげてみるとか、そういったことは検討されますか。

(清水市長)

指導課長。

(指導課長)

ありがとうございます。おっしゃるとおり、一生懸命頑張っている子どもたちの中で、学びに苦しんでいる子どもたちがいるというのは、本当に切実な問題であるというふうに思っております。

この東京ベーシック・ドリルの活用の仕方について、一番この東京ベーシック・ドリルが優れていると思える点は、1枚目で御覧いただきますと、小学校6年生のものです。これは小学校5年生の内容が完璧に身につけているかどうかというのを見てございます。その中で、実は、6年生になって2年生の問題をやることも全く構わないというものが東京ベーシック・ドリルでございます。

なので、この子どもたちが、なかなか正答数が増えてこなかった子どもたちが、どこにつまずきがあるのか、その部分から個別に支援・指導をしてあげることで、積み上げていって、課題克服につなげるようなことができるものとして、東京都が示しているのが東京ベーシック・ドリルでございます。そういった活用の方法について、私どもも全校の校長たちとお話しをしたりする機会がございますので、そういった中で東京ベーシック・ドリルの使い方について助言させていただいて、どういうふうに使っていくと子どもたちのつまずきを防げるかというようなことについてアドバイスをさせていただいているところでございます。

その一方で、特別支援教室ですとか、そういったところの指導も本市では充実してきております。そういったところと連携しながら、その子にあった部分、6年生だから絶対5年生を完璧じゃなくちゃいけないというところではなくて、その子に合ったレベル

のところでした。しっかり指導して、たくさん丸をもらって、お、やった、次もやってみるぞという意欲をうまく喚起しながら、次も東京ベーシック・ドリル挑戦してみたいなと思ってもらえるような授業改善を、小学校の時代から積み上げていくことが、実は、行く行くは中学校の学力の伸長にもつながるのではないかとこのところ、いろいろな助言をさせていただいているところです。

以上です。

(清水市長)

よろしいですか。嶋田委員。

(嶋田委員)

おっしゃったように、個に応じた指導というのを、ドリルだけじゃなくて、いろいろと試しながらやっていただければと思います。よろしくお願いします。

(清水市長)

ほかに御質問の方いらっしゃいますか。伊藤委員。

(伊藤委員)

御説明ありがとうございます。学力調査、全国の状態とはちょっと違うと思いますし、こういう御時世ですのでやむを得ないと思っておるんですけど、私が最初に教育委員にならせていただいた何年か前に、立川の状況を見たときにフタコブラクダという、山が2つあるという状態で、これ何ですかというふうなこともお聞きしたことがあったんですが、その状況と比べて、全部ではないんですけども、確実に全体的なレベルは上がって、下のほうの山の人たちが少しずつ真ん中に動いているのではないかなという気がいたしますが、その辺はいかがなんでしょうか。

(清水市長)

指導課長。

(指導課長)

ありがとうございます。そういったフタコブラクダの傾向というのは、全国的には継続しているところがあるんですけども、このベーシック・ドリルについては、やっぱり子どもたちに身につけてほしい事柄を中心に構成されているものでございます。

ですので、これで子どもたちの伸長や変化を見ていくわけですけども、成長や変化を見ていくわけですが、校長先生方には、これはできれば多くの子どもたちができるようになってほしいという願いが込められたドリルであることというのは繰り返し伝えながら、やらせてきていただいたところでございます。

そういった意味において、特に小学校の3月の結果については、右上に向かって真っすぐ伸びるような形になってきてございますし、そこにフタコブが見られなくなってきているというのは、いろいろな個別の支援のありようでありますとか、授業改善というのが一定程度、本市に定着してきているということの表れと、併せて子どもたちが頑張っているところかなというふうに思っております。

以上です。

(清水市長)

ほかにいかがですか。教育長。

(教育長)

本当にコロナで休校もありましたので、大変に心配したんですけれども、全国のテスト、東京都のテストもなくなって、どのように子どもたちを指導していったらいいかという中で、ベーシック・ドリルを活用して、立川市バージョンでしっかりと子どもたちの現在位置を確認しながら取り組んでいこうということの結果かなというふうに思っております。

立川市の学力に関しましては、授業改善と補習を中心に取り組んできて、その補習に関しましては、市長をお願いして予算をつけていただきまして、放課後、大学生だとか地域の方に入っていて、授業でちょっとつまづいている子どもたちをしっかりと補習するということが、かなり学力を支えるという意味では効果的だというのは、立川市の実践の中で検証されてきて、そういったことをうまく組み合わせていけたのかなというふうに思っています。

それにも増して、今回、タブレット PC を 1 人 1 台入れていただきましたので、今度はそのタブレット PC を使って、さらに多様な学び方を子どもたちに提供することができるんじゃないかなというふうに思っております。

そういったものをうまく組み合わせるとともに、先ほど市民科の中で学び合いが大事だということで、やはり学びというのは孤独に陥ってしまうところはあるんですけれども、そうじゃなくて、しっかりと学び合うことが自分の学びを深めることになるというのが、子どもたちから私自身が学んだことでございますので、そういった立川市民科の取組で学ぶ意欲とか、そういったものもしっかりと組み合わせながら取り組んでいくことが大事かなというふうに思っております。

今後とも、学力に関しましては、市長も大変に思い入れのある取組でございますので、私が最初教育長に就任するときに学力と言われましたので、そのミッションをしっかりとこれからも取り組んでまいりたいというふうに思っております。

私の意見です。

(清水市長)

分かりました。石本委員。

(石本委員)

ありがとうございました。ベーシック・ドリルの結果は、すごく目に見えてよく分かるものをお示しいただいてありがたいなと思います。

これは、立川でということではないので、今後、そういう視点も大事かなというふうに思うのでお話しするんですけど、小学校で教員を配置するときに、大体、1年生と6年生に力のあるベテランの教員を配置していく学校が多いんですが、今、一番問題になっているのは4年生の学びで、それから、4年生の規律というところが学校によっては非常に苦慮している学校もあるという話で、学校経営の在り方としても、やっぱり視点として入り口である1年生に当然、力のある先生方が、それまでは幼稚園・保育園のお子さんだったので、そこから学校生活というところに引っ張っていかなきゃいけないわけですから当然のことですし、当然、小学校の教育課程の仕上げというところ、それから、次の中学校へのつながりを考えれば6年生も当然大事になってくるわけなんですけども、

4年生が実は、算数も一挙に難しくなって、そこで学びがなかなか追いつかないお子さんも多いというようなお話も、今、話題になっているところなので、そういう視点も大事にさせていただければありがたいなというふうに思います。

すみません、以上です。

(清水市長)

ありがとうございました。指導課長。

(指導課長)

ありがとうございます。どのような指導がそのときに行われるのかというのが、どの学年においても重要なことかというふうに思います。

今、御指摘いただいた小学校3・4年生というのは、算数でいうと足し算、引き算、掛け算、割り算、四則演算が全て完成するのが3・4年生の時代になりますので、当然、そこでしっかり身につけておくということが、その後の学びに大きな影響をもたらすというのは間違いないところでございますし、面積でありますとか、そういった多様な考え方が入ってくるのも3・4年生の時代になります。

そういった意味において、どの学年においても重要な指導内容というのは常にあるわけなんですけれど、単純な学級経営だけの視点で担任の選定ですとか、そういった組織編成が行われないような注意喚起というのは行っていきたいなというふうには思います。

以上です。

(清水市長)

よろしいですか、石本委員。

実は、今のようなお話が、今回、市としても1人1台パソコン導入のときにあったんですね。

先ほど教育長が言っていました。パソコンをグループで、四、五人で1台で十分間に合うだろうというふうなことだったんですが、これがとんだ浅はかな答えでして、私も孫を見ていましたら、小学校1年生か2年生ぐらいの子どもがパソコンを一人前に操作するんですね。

そしたら、五、六人のグループで1台パソコンなんてやっていたら、逆に進行が遅れてしまうだろうと。そういう話を教育長からも聞きまして、これはもう予算のやり直しということで、そのときに1人1台パソコンにしましょうと、こういうふうな形にしました。その結果、本当に目に見えるような勢いで子どもたちの能力が上がってきたと、こんなことがたくさんニュースとして私の耳に入ってくるようになりました。本当によかったなというふうに思います。

子どもたちの能力というのは、計り知れないものがあるんじゃないかと。そういうことですから、立川の教育、何か期待を持っていいんじゃないかなと感じております。

ぜひ、皆さんの今後もまたお知恵を拝借させていただいて、立川の子どもたちを育てていただければというふうに思っております。

よろしく願いいたします。

それで、本日予定されておりました議題は、以上で終了とさせていただきます。



## 2. その他

(清水市長)

続きまして、次第のその2でございます。その他に移ります。

事務局の企画政策課長から説明を。企画政策課長。

(企画政策課長)

本日はありがとうございました。

本日の議事録につきましては、後日、委員の皆様に御確認をお願いいたします。

御確認いただきました後に、市ホームページ、市役所3階の市政情報コーナーで公開いたします。

また、次回の総合教育会議につきましては、本年11月11日、木曜日、15時30分から、本日と同じ場所、208・209会議室にて開催を予定しております。

以上でございます。

(清水市長)

このことにつきまして、委員の皆さんから何か御発言はございますか。よろしいですか。

それでは、特にないようでございますので、令和3年度第1回立川市総合教育会議を閉会といたします。

大変お疲れさまでした。ありがとうございました。

—了—